

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400087	事業の開始年月日	平成19年2月1日
		指定年月日	平成19年2月1日
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜宮沢		
所在地	(246-0038) 神奈川県横浜市瀬谷区宮沢3-21-25		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
定員計		18 名	
		エント数	2 エント
自己評価作成日	平成24年10月7日	評価結果 市町村受理日	平成24年12月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>3年程前より、実際の災害時にあっても迅速冷静に、ご利用者様の避難誘導を行なえるよう、毎月1回、自主防災訓練を実施しています。毎回、出火時間帯や出火場所を想定し、ご利用者様を駐車場まで避難誘導しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年10月26日	評価機関 評価決定日	平成24年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点></p> <p>◇防災訓練に近隣住民の参加と毎月の自主防災訓練 ・消防署指導の夜間避難訓練は毎年1回行い、近隣住民も参加している。また、自主防災訓練は出火場所等の想定を替えながら、職員と利用者で毎月1回行い、非常事態に備えている。</p> <p>◇自立支援のトイレ誘導 入院中にリハビリパンツを使用していた利用者が、事業所に帰ってから、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、その結果2名が布パンに改善された成果が挙げられている。</p> <p><事業所が工夫している点></p> <p>◇利用者への誤薬防止のための与薬体制 服薬事故防止のため、個人用ピルケースに利用者の名前と写真を貼り、与薬時に必ず名前を確認し、ダブルチェックすることを決め実行している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜宮沢
ユニット名	1 U

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、会議や申し送りなどで全職員が確認しあい、理念の一つである「笑顔」を実行できるよう努めています。	・理念は1階、2階に掲示し、職員同士で理念の「笑顔」「地域にホームを知ってもらおう」ことを忘れないように日々確認している。 ・そして職員は自分の笑顔で、利用者と地域を更に一層結びつける役割を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶をはじめ、町内会に加入し地域行事や、地区主催の「お茶会」へ参加できるよう努めています。	・自治会に加入している。隣の神社の例大祭の時には、地域の要望で事業所の駐車場を開放している。 ・地域懇談会「ほっとサロンゆうあい」に年3～4回参加し地域住民と懇談その他交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や消防訓練、地域懇談会などで話し合い、理解頂けるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人内の近隣3事業所が合同で、年4回（今年度は6回予定）運営推進会議を開催し、町内会長はじめ、地域包括支援センター職員などから有益な情報を得て、サービス向上に努めています。	・同一法人の3事業所が合同で町内会長、連合副会長、民生委員、地域包括支援センター職員をメンバーとし2か月毎に開催している。 ・地域包括センター職員から車椅子のレンタルがあることを聞いたり、自治会長から防災関連のアドバイスを貰ったりしてサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、福祉課などの助言：協力を得ながら、ケアサービスの向上に努めています。	・瀬谷区役所高齢・障害支援課職員に介護保険に関することや介護支援に関する相談をし、アドバイスを貰っている。 ・その他介護に関する諸資料の提供を受け、一言通信で家族に知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア実践のため、玄関へ「身体拘束廃除宣言」を掲示し、毎月1回「身体拘束廃止委員会」を開催し、周知徹底に努めています。	・毎月事業所内で「身体拘束廃止委員会」を開催し、スタッフ同士で身体拘束をしてはいけないこと、しないことを再確認して、今後も通常ケアに努めることを申し合わせている。	・玄関の日中施錠解除に向けて、利用者の見守り方法の検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や「身体拘束廃止委員会」などで、虐待防止について考える機会を設け、暴力や言葉での虐待が無いよう周知徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などで学び、折に触れ検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時共に、丁寧に説明し、不安や疑問の無いよう配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に「意見箱」を設置しています。又、年6回の家族会や面会時などに、ご家族様の意見、要望を伺い、運営に反映するよう努めています。	・年6回家族会を開催し、席上で認知症に関する勉強会や協力医療機関の制度変更の案内をしている。家族からは終末期に関する心配事の相談があり、家族とのコミュニケーション事例などを交えてアドバイスをを行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議などで、職員からの提案：要望を聞き、運営に反映しています。	・ユニット会議を月1～2回開催し、全体会議は必要時に開催して職員の意見の意見・提案を受けている。 ・改善具体例としては、服薬事故防止のために、個人用ケースに利用者の名前と写真を貼り、与薬時に名前を確認し、ダブルチェックすることを決め実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による個人面談を実施、個々の事情を考慮したシフト調整を行ない、働きやすい職場環境や労働条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業内研修をはじめ、法人研修、外部研修などの参加を促し、学ぶ機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会」「グループホーム連絡会」に加入し情報収集、サービスの向上に努めています。又、近隣のグループホームとのネットワーク作りにも努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安などを、軽減して頂けるよう丁寧に傾聴、又、共感し、信頼関係を築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望などを傾聴し、親切丁寧に対応、良好な関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の入居担当者、協力医療機関等と連携し、速やかな対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	飲食・掃除や散歩などの日常生活を共に過ごし、家族のような関係を築けるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、情報を共有、ご家族様と共にご本人を支えよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力・同意のもと、馴染みの場所への外出や、友人などが気軽に面会できる、環境作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族同伴で馴染みの美容院に出かけ買物や外食をする利用者や、元会社の同僚や知人の訪問がある利用者には、懇談の場を提供している。 ・携帯電話の所持を希望する利用者には、家族の了承のもとに居室で利用することを条件に認めた。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が共に楽しみ、良好な関係を築けるよう声かけをしたり、掃除なども協力し合って行えるよう、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物の返送や、法人で発行しているフリーペーパー等を発送しています。又、必要に応じ電話でも対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から、一人ひとりの思いや意向を汲み取るよう努め、ケア会議や申し送り時に情報を共有、支援しています。	・日常の会話等から利用者の意向や思いを汲みとっているが、コミュニケーションが困難な利用者の場合は表情や仕草から判断している。 ・汲み取った事柄は、申し送りや生活記録に記入して、全職員が共有に勤めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査表などを把握し、日常生活の中でも、ご家族様やご本人から伺い、情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・排泄・バイタルチェック等を毎日実施、行動・言動を含めた様子を生活記録に残し、一人ひとりの情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月・6ヶ月経過毎にモニタリングを行ない見直しています。又、カンファレンスで職員間の意見交換を行い、ご利用者様・ご家族様の意向を反映した介護計画を作成するよう努めています。	・毎月、職員間でモニタリング、カンファレンスを行った後、家族の意向を面会時や電話で聞いて介護計画を作成している。 ・家族との話合いの内容は意向書に纏め、郵送して家族の同意署名を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの身体状況や言動などを詳細に記録、全職員が情報を共有し、介護計画の見直しや実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況やご家族の要望に応じてゆけるよう、職員のスキルアップと共に、柔軟なサービス提供に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、近隣住民と連携し、避難訓練：消火訓練などを実施。又、近隣施設へ火災時などの協力要請を行なっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の同意を頂き、協力医療機関からの内科訪問診療と歯科訪問診療を各月2回、歯科衛生士による訪問診療を毎週受けています。	・家族の同意を得て、利用者は事業所の協力医（内科）をかかりつけ医とし月2回の往診があり、毎月1回歯科医の訪問診療を受けている。 ・その他口腔衛生のため、毎週歯科衛生士の来訪を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師へ週1回、一人ひとりの状況や変化を報告、適切な介護や受診に繋がるよう相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、医療機関との連絡を行い状況を把握、入院時及び退院時には、医師やサマリーからの情報を基に対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取り指針に基づき、家族会などで話し合いを行い、ご利用者様・ご家族様の意向にそえるよう努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合の対応は、医師の判断のもとに家族の同意を得て病院治療を受けている。 ・看取り事例はないが、医師、看護師、家族、職員の連携が不可欠であり、家族会でも今後の対応を話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り実施に当たっての必要事項を把握して、職員の研修と心構えを充実させることの検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員立会い指導の下、AED含む救命法を実施、緊急時に備えています。又、緊急時対応マニュアルを掲示し、速やかに行動できるよう備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立会い指導の下、近隣住民と連携し、夜間想定消防避難訓練を行っています。又、出火場所、時間など想定を変えながら、毎月1回、自主防災訓練を実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災訓練は、毎月1回、出火場所・時間などの想定を替えながら、職員と利用者で行っている。 ・消防署指導の避難訓練は年2回行っている。うち1回は夜間想定避難訓練で、近隣の方々も参加している。あと1回は職員の救命器具操作訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインがストップした場合に備えて、近隣事業所からの応援を待つ間の1日分程度の米、水等の備蓄の検討を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や「身体拘束廃止委員会」などで、ご利用者様への言葉使いや接遇のあり方を学び、一人ひとりの人格やプライバシーを尊重するよう努めています。	・職員は入社時に研修を受け、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷付けないようにトイレ誘導などもさりげなく行っている。 ・日常生活でも、利用者のペースを尊重し、せかしたりはしないことを全職員が周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの好きな事、出来る事などを把握し、コミュニケーションの取り難いご利用者からは、思いを汲み取り、自己決定に繋がるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、必要以上に介入しないよう、その人らしい暮らしの実現に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、散髪や顔そりなど、一人ひとりの希望に沿えるよう、支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態などへ配慮し、安全で楽しい時間となるよう、食事を共にしています。又、ご利用者様は下膳など、出来ることを行っています。	・食事の準備、下膳、片づけ等利用者が個々の能力に応じて職員と一緒にしている。 ・日々の献立は設置法人本部が作成しているが、行事食は利用者が楽しめる好みの献立を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立表が作成されています。又、食事や水分の摂取量を記録し、必要に応じて食事形態を変えるなど、一人ひとりの状態に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、衛生士による訪問診療を定期的実施。管理指導に基づき毎食後、声掛け・見守り・介助などを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表へ記録し、一人ひとりの排泄リズムを把握、必要に応じ定時誘導などを行い、排泄の自立に努めています。	・自立支援を目的として、個人個人の排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。 ・入院中オムツやリハパンツだった2名の利用者が、退院後、声かけやシグナルを察知したトイレ誘導により布パンツになった成功例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等で身体を動かしたり、水分補給を行うなど、便秘予防に働きかけています。又、必要に応じ主治医より、下剤が処方されています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や希望にそって、無理強いせず、入浴を楽しめるよう努めています。又、障害のある方はリフト浴を行うなど、個々に応じた支援を行っています。	・入浴時間は原則として14時から16時半とし、週2～3回入浴している。、障害のある利用者にはリフト浴を提供している。 ・入浴は利用者と職員の触れ合いの場として、利用者にとって楽しい場になるよう歓談に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明の調整に配慮し、不眠時には、お話を伺うなどし、安心して休んでもらえるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による管理指導に基づき、薬剤変更・用法・容量など、記録や申し送りにて周知徹底に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ることや楽しみを探し、張りのある生活が送れるよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、近隣の神社へ行ったり、テラスでの外気浴や、園芸を楽しむよう支援しています。	・天候の良い日は、近隣の神社や河川敷まで足を伸ばしている。車椅子利用者も一緒に外出できるように支援している。 ・体調等により外出を控える方には、テラスなどで外気浴を行うように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回の移動パン屋訪問の際には、一人ひとりの力に応じ、商品を選んだり代金を支払えるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話を希望された時や、ご家族様などからの手紙や電話の際は、ご本人自ら、やりとりができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に写真や、季節ごとの作品を飾り、温かい雰囲気を作るよう努めています。	・リビングは、陽光が入り明るく清潔で利用者にとって居心地の良い環境が整ってる。 ・壁面に行事の写真や利用者と職員が合作した貼り絵等が飾られ、季節の草花も飾り、楽しい雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのTV前や、テラスに長椅子を置き、思い思いに、くつろげるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に、ベット・クローゼット・整理ダンス・洗面台を設置、ご利用者様の馴染みの仏壇やTV・家具等を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる環境作りに努めています。	・居室には事業所備え付けの家具・備品の他に、仏壇やテレビ、家族の写真等を持ち込み、居心地のよい自分の部屋作りをしている。 ・居室出入り口の壁に利用者自身の写真と表札を掲示し、また、自分の作品を飾って楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口に、顔写真と氏名などを貼り、わかりやすいように工夫しています。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜宮沢
ユニット名	2U

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		○ 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		○ 3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○ 2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		○ 3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社、ホームの理念を掲示し、職員全員が自覚をし、実現に繋げるように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出の時の挨拶、ボランティアの受け入れ、防災訓練などに参加して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人へ理解や、支援方法を防災訓練後の懇談会を通じ、地域の人々に伝えられるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より年6回、3グループホーム合同の運営推進会議で、各ホームの取り組み状況や活動情報などを話し合い、そこでの意見を活かすよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課・地域包括支援センターからの助言などを頂き、協力を得ながらケアサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回「身体拘束廃止委員会」を開催し、資料を基に読み合わせや具体的な事例を検討し、身体拘束ゼロに向けて、周知徹底しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修などで学ぶ機会を設け、虐待防止に努めています。又、入浴時などに、心身の傷を見逃さないよう、注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などで学び、折に触れ検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時共に不安や疑問を残されないよう丁寧に説明し、納得頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望などを表せるようにしています。又、年6回家族会を設け、その中での意見交換を、運営に反映できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回各ユニット毎に会議を開き、職員の意見交換を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、勤務状況等を把握し、意欲を持って働ける環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のお知らせを、全職員が閲覧できるようファイリングし、特に参加して欲しい研修については、各ユニットに配布し参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議、エリア会議など、管理者同士のネットワーク作り、情報交換に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、困っていることに耳を傾け共感し、不安感を軽減、信頼関係を築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年間の家族会の充実を図ると共に、ご家族様の要望・相談などに耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望などに耳を傾け、必要に応じ医療関係・治療院等と連携し、サービス向上に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々穏やかに過ごして頂けるよう、良い環境・良い人間関係が築けるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支え合う関係を保ち、日々の連絡を充実し、共有して行けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様から情報を収集し、馴染みの方々がいつでも気軽に、訪問して頂けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格・趣味・行動などを把握し、ご利用者様同士と一緒に楽しく会話・レクリエーションに参加できるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当社の冊子などを送ると共に、ご家族様との関係を大切に、相談・支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの永年の生活歴や思いを把握し、希望・意向に反映できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査票や、ご家族・ご本人から生活歴・生活環境などの情報を得て、サービスに取り入れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ご利用者様の心身状態・健康状態・言動などを申し送り、情報の共有・把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月・6ヶ月のカンファレンス・モニタリング・アセスメントにより、ご本人・ご家族様の要望、職員の介護情報などを基に作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、異なった言動などを記録し、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望、ご家族様の要望を尊重し、ケアに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお茶会参加や、地域の方々の協力を得て、定期的実施の防災訓練に参加できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診医の診察を受け相談、アドバイス及び医療を得られるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、医療連携看護師へ日々の生活の変化や気づきを伝え、アドバイスを医師へ繋いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時・退院時においてはサマリーや、病院関係者からの情報及び指導を受け対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・ご本人の思いを踏まえ、医師と相談しながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受け、AED・救命法などを訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に自主防災訓練を実施、年2回、消暑署員の立ち合い訓練・指導を受けています。又、町内会の方々の協力を得ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や人生経験を傾聴するなかで、一人ひとりの人格を尊重し敬い、言葉掛けにも注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思決定を尊重し、その日着る洋服を一緒に選んだり、ご本人希望のレクリエーションを提供し、参加できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにしたい事を伺い、希望に添えるよう、レクリエーション等を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し、洋服選びの際は、季節・気温のアドバイスなどを行い、その人らしさが表現できるよう、支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、盛り付け・配膳、片付けを利用者と職員が、一緒に楽しく行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や体調に合わせて、常食・きざみ・一口大などに対応し、食事摂取量・水分摂取量を記録、不足されている方には小まめに、不足分を補って頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、一人ひとりの状況に合わせて、口腔ケアを介助したり、声かけ支援を行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて介助を行ったり、声掛け・トイレ誘導など行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操は毎日行い、散歩や水分補給などにて、便秘にならないよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や体調にあわせ、声掛けなどの工夫をし、入浴が楽しめるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由に、安心して気持ちの良い休息ができるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導及び薬情報等により、職員全員が服薬について理解しており、症状の変化に注意し、服薬管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある日常生活を送れるように、役割、興味のあるものを持てるものを提供し、支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調、希望に応じ、散歩に出かけたり、地域の行事に参加できるよう、又、ご家族様と一緒に外出できるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問パン販売の際、好きなパンを選び、代金を支払って頂くよう、支援しています。又、買い物に出掛けた際も、代金を支払えるよう、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望している時に、電話を掛けたり、手紙のやり取りができる、環境作りをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎、月毎の作品を作ったり、行事写真等を壁面に飾りつけ、居心地の良い環境作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダに出て外気浴をしたり、テレビ前のソファに座り、テレビやビデオを観たり、思い思いに過ごせる環境を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの好みや馴染みの物、使い慣れた物を持参して頂き、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安がなく、安心して生活が送れるよう配慮し、一人ひとりの力が自信に繋がるよう、支援しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHみんなの家横浜宮沢

作成日 H24. 12.

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		スタッフによって、家族対応、事案対処に差があり、不統一。	ご利用者様、ご家族様への対応を統一する。	申し送りノートへの記入及び、口頭による引継ぎ等の徹底を行い、対応を統一。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。